

令和2年8月19日

## 令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

長野県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上田市立菅平小・中学校	上田市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
上田市菅平小学校	<a href="http://www.school.umic.jp/sugadaira/">http://www.school.umic.jp/sugadaira/</a>	<a href="http://www.school.umic.jp/sugadaira/">http://www.school.umic.jp/sugadaira/</a>
上田市菅平中学校	<a href="http://www.school.umic.jp/sugadaira/">http://www.school.umic.jp/sugadaira/</a>	<a href="http://www.school.umic.jp/sugadaira/">http://www.school.umic.jp/sugadaira/</a>

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページのURLを記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法等を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

地域の特性を生かし、心身共に健全でたくましい児童・生徒の育成や地域に貢献する人材の育成をねらい「スキー科」を実施する。また、外国人と十分なコミュニケーションをとれる人材の育成をねらい、音声を中心とした対話活動を行う「英会話科」を実施する。

## [小学校]

- ・小学校1～6学年で「スキー科」を実施する。【継続】
- ・小学校1～2学年で「英会話科」を実施する。【継続】

## [中学校]

- ・中学校1～3学年で「スキー科」「英会話科」を実施する。【継続】

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

菅平高原は、上信越高原国立公園の中にあり、冷涼な気候を利用した農業と観光業が盛んである。特に観光業は、昭和2年(1927)にスキー場が開発されて以降、レジャースキーの拠点として名声を得てきた。さらに、1980年代の終わり頃からは、高地トレーニングへの適性にも注目し、ラグビー・サッカー・陸上競技などの合宿招致にも力

を注いで現在では年間130万人の観光客が訪れ、外国人観光客も増加している。このような地域性にあつて、小中併設の小規模校である菅平小・中学校は、保護者の大部分が何らかの形で観光業に携わっており、地域の特性を生かしたスキー活動を通して地域への愛着と誇りを育むとともに、増加する外国人観光客と十分なコミュニケーションがとれる英会話の力を身につけた人材の育成が求められている。

(3) 特例の適用開始日

平成20年10月16日

令和2年1月22日 変更

(4) 取組の期間

次回教育課程が見直されるまで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

- ・ 校務分掌(教科指導)に「スキー科」「英会話科」を設置している。
- ・ スキー学習では、本校職員の他に、各学年に応じて保護者、地元長寿会会員、地元スキークラブから派遣されたコーチによる指導を行っている。
- ・ 英会話科では、小中併設校の利点を生かし、中学校英語科職員が小学校に乗り入れて授業を行う時間を設定している。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

ホームページにより活動の様子を報告している。合わせて年間に8~10回、学校だよりを全戸配付し、小・中学校の活動について情報を提供している。学校だよりは学校ホームページにも掲載している。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

菅平の地は先人たちが長い年月をかけて自らの手で切り開いてきた。特別な教育課程の編成により、地元の方から指導をしていただく（特にスキー活動において）ことを通して、この地で育ってきた大人の姿や先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神に触れ、子どもたちの大人へのあこがれや地域への愛着につながっている。

一方、地域内でも世代交代が進むなど多様な価値観があり、指導者の確保が難しくなりつつある。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

児童生徒が郷土や学校に愛着と誇りをもっている。また地域の多くの方々の期待を受け温かく見守られていることを様々な学習や行事の場面で実感することで、素直に学んだり学校生活を送ったりする児童生徒が多い。

一方で、低学年から外国語に慣れ親しみALTと抵抗なく触れ合ったりすることができるものの、地域等で実際に英会話を実践する機会がなかなかとれない状況にあるが、令和元年度の全国学力・学習状況調査では、英語の平均正答率が市全体の平均を上回り、英会話科の設置効果が出ていると考えている。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

指導者の確保については、地元に戻ってきている若い世代に幅広く声をかけたり、スキー大会において好成績を上げていき改めて地元の方々に注目していただくことで、学校活動に協力していただける方を増やしていくようにしていきたい。

英会話の実践は、スキー活動、生活科や総合的な学習の時間において地域に出る活動の中で、スキーや観光、合宿に訪れている外国の方と話す場面を想定し、事前学習を行った上で活動を行い、児童生徒が学校で取り組んでいることが生活の中で生きたという実感をもつ場面を作ってまいりたい。